

No.170

令和2年6月17日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



いづれ菖蒲か杜若



学校はやっぱり子どもたちが来るとこだのん。しばらく子どもたちが来なかったで、なんていうかやあ、やっぱり寂しかったぞん。

しばらくはコロナが心配で先生たちも大変だろうけど、頑張っておくれね。

先日、通用門近くに住まわれている地域のかたからこう話しかけられました。本格的に学校が再開されてから2週間あまり。「子どもたちがいてこそこの学校」を強く感じます。学校生活が軌道に乗りかけているとはいえ、新型コロナウイルス感染症対策はまだ途上です。一定程度“収束”しているようではありますが、“終息”には至っていません。学校での新しい生活様式が定着するよう、子どもたちへの指導を継続させてください。これまでの対策や対応が「元の木阿弥」にならないようにしなくてはなりません。

さて、拙紙 *Rising Sun* No.168 でアジサイのことを話題にしました。この時期アジサイとならんで私たちの目を楽しませてくれるのが、菖蒲(アヤメ)です。漢字で表すと全く同じ菖蒲、見た目もよく似ている花に花菖蒲(ハナショウブ)があります。豊橋では賀茂しょうぶ園が有名ですね。一度や二度は足を運んだことがあるのではないのでしょうか(例年この時期に開催されている「花しょうぶまつり」は、新型コロナウイルス感染症予防のため、今年は中止されてしまいました)。

諺で「いづれ菖蒲(アヤメ)か杜若(カキツバタ)」と言われるように、いずれもこの時期に花期を迎えるアヤメとカキツバタ、それに加えてハナショウブ。いずれも似た花ですが、見分けがつくのでしょうか。一目で見分けられたら、よほどの通です。今回はこの三つの花の見分け方をお伝えしようと思います。

アヤメとハナショウブ、カキツバタの三つは見た目がよく似ていて、まちがわれることも多い花です。花の見た目だけでなく、花が咲く時期や群生して咲くところも似ています。パソコンやスマホで漢字に変換す

るとき、アヤメもショウブも「菖蒲」と変換されます。ぱっと写真を見せられても、区別がつかないという方は多いのではないのでしょうか?

アヤメは、ユリ目アヤメ科アヤメ属の植物で、漢字では「文目」「綾目」と書きます。菖蒲とするのは本当はまちがいです。開花時期は5月上旬～5月中旬ごろ。花の大きさは小輪で、背丈は30cm～50cmとハナショウブやカキツバタと比べるとやや小さめです。草原や乾燥地で育ち、水の多い湿地では咲きません。

ショウブの花として私たちが目にしているものは、正しくは「ハナショウブ」です。ハナショウブはユリ目アヤメ科アヤメ属に属し、漢字では花菖蒲と書きます。開花時期はあやめよりも少し遅く、6月上旬～6月下旬。花は大輪で、背丈60cm～100cmにまで成長するものもあります。ショウブは湿地や湿原に生える植物で、しょうぶ園へ見学に行くと水が張られて池のようになっているのはこのためです。

アヤメとハナショウブがユリ目であるのに対し、カキツバタは、キジカクシ目アヤメ科アヤメ属に属します。漢字では「杜若」や「燕子花」と書き、開花時期は5月中旬～5月下旬です。カキツバタの花は中輪、背丈は30cm～90cm程度。開花時期も背丈も、アヤメとハナショウブの間くらいで、池や沼などの近くや湿地に自生します。

アヤメとハナショウブ、カキツバタは、それぞれ背丈や自生する場所が異なりますが、なかなかこれだけで判断するのは難しいものです。

この3種類の花の見分け方のポイントは「花びらの付け根」にあります。

【アヤメ】 花弁の根元が白と黄色、網目模様がある

【ハナショウブ】花弁の根元が白と黄色、模様なし

【カキツバタ】 花弁の根元が白一色で模様なし